

医療薬学A (Clinical Pharmacy A)					担当教員
					教授 楠本 正明 講師 今西 孝至 講師 松村 千佳子 講師 中村 暢彦 非常勤講師 河野 修治
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等	
薬学専門教育（講義）	4年次 前期	講義	1.5単位	必修	

【概要】

近年、チーム医療推進の中で様々な医療改革が進められている。薬剤師の業務は調剤を中心としたものから、患者情報を考慮した処方監査や服薬指導、薬物血中濃度モニタリングによる個別処方設計、注射薬の混合調製など、患者を中心としたものに変化してきた。良質な薬物療法の提供と医療の安全確保に貢献するためには、医療環境の変化への適切な対応が薬剤師に求められる。本講では、薬剤師業務の基礎を中心に、新しい業務展開について講述する。

【授業の一般目標】

臨床現場において薬剤師業務を安全かつ適正に遂行するために、薬剤師の業務概要と社会的使命を理解し、薬剤師として身に付けておくべき基本的知識を修得する。

【関連する卒業認定・学位授与方針】 DP1・DP3・DP4

【準備学習(予習・復習)】

次回の学習項目について教科書に目を通し予習をしておくこと。講義で配付された資料や板書を元に復習すること。予習と復習には一週あたり150分の学習が必要である。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	医療と薬剤師（１）	楠本	医療倫理、薬剤師の使命について説明できる。 医療を取り巻く最近の状況について説明できる。	A-(1)-②-3 A-(2)-③-3 B-(3)-②-2
2	医療と薬剤師（２）	楠本	薬剤師業務の変貌および医薬分業の仕組みと意義を概説できる。 他の医療従事者との連携について説明できる。	A-(4)-3 F-(1)-③-1 F-(4)-①-1,2
3	医薬品の有効性と安全性	楠本	治験の意義と仕組みについて概説できる。 後発医薬品とその役割について説明できる。	B-(2)-②-2,3 B-(3)-②-3 F-(1)-③-3
4	医薬品管理業務（１）	今西	医薬品管理の意義、医薬品の購入、在庫、供給、使用管理について説明できる。	B-(3)-②-1 E3-(1)-⑦-1 F-(2)-⑤-1,2
5	医薬品管理業務（２）	今西	医薬品の品質管理について概説できる。 特別な管理を必要とする医薬品（毒薬・劇薬・麻薬・向精神薬など）について説明できる。	B-(2)-③-1 F-(2)-⑤-1～3,8
6	医薬品管理業務（３）	今西	特別な管理を必要とする医薬品（特定生物由来製品・放射性医薬品など）について説明できる。	F-(2)-⑤-1,2,4,5
7	注射薬・輸液（１）	松村	輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。 体内の電解質について説明できる。	F-(3)-③-4,5,6
8	注射薬・輸液（２）	松村	輸液の投与設計ができる。 注射薬の配合変化、効能・効果、用量・用法、相互作用を説明できる。	F-(3)-③-4,5,6
9	注射薬・輸液（３）	松村	アミノ酸輸液、脂肪乳剤、高カロリー輸液の適応を説明できる。 ビタミンや微量元素の欠乏症について説明できる。	F-(3)-③-4,5,6 ☆
10	副作用の初期症状とグレード（１）	河野修	副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	F-(1)-③-2
11	副作用の初期症状とグレード（２）	河野修	副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。	F-(1)-③-2
12	製剤業務、消毒薬、院内感染対策	中村暢	製剤化の基礎について説明できる。 消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。 消毒薬調製時の注意点を説明できる。 院内感染の回避方法について説明できる。	F-(2)-⑤-6,7 F-(2)-⑥-4,6

13	リスクマネジメント（１）	中村暢	リスクマネジメントにおける薬剤師の責務を説明できる。 医薬品に関連した事故、薬害事件についてその原因と対応を説明できる。 用法・用量など誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。	A-(1)-③-2～4,6 F-(2)-②-1 F-(2)-⑥-1～3
14	リスクマネジメント（２） ～SGD～	楠本 中村暢 今西 松村	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。	F-(2)-⑥-3
15	総括・まとめ			

（書名）
教科書 医療薬学（第6版）

（著者・編者）
乾 賢一 編

（発行所）
廣川書店

【成績評価方法・基準】

定期試験による講義内容についての知識の理解度（90%）、およびSGDを通して考えたリスクマネジメントの論述（10%）により総合的に評価する。

【評価のフィードバック】

講評は、掲示にて対応する。